（別紙様式4）

令和8年11月1日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
麻生医療福祉＆保育専門学校	平成9年2月13日	大山　明	〒　812-0016 （住所）　福岡市博多区博多駅南2-12-29 （電話）　092－415-2294
設置者名	設立認可年月日	1後	所在地
学校法人麻生塾	昭和26年3月12日	理事長　麻生　健	〒　820-0018 （住所）　福岡県飯塚市芳雄町3-83 （電話）　0948-25-5999

分野	認定課程名	認定学科又は専攻科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
商業実務	商業実務専門課程	AI＆診療情報管理士科	平成20（2008）年度	―	平成25（2013）年度

学科又は専攻科の目的	診療記録を正確に管理・分析するために必要な医療や医事の知識を幅広く学び、医療機関内の診療情報管理室等において120時間の実習にて実践力を磨き、卒業時に診療情報管理士資格取得をめざす。
学科又は専攻科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	学科の特徴：診療情報管理士認定試験受験資格の3倍の病院実習を履修。現場での実践力を磨くことができ、就職活動に活かすことができる。最先端医療機関（東京）での実習に際し、奨学金制度がある。 取得可能な検定・資格：　診療情報管理士/診療報酬請求事務能力認定試験/医師事務作業補助者実務能力認定試験/医療事務技能認定試験/医療事務管理士技能認定試験　他

修業年限	昼夜の別	全課程の修了に必要な総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3　年	昼間	93　単位	77 単位	33 単位	7 単位	0 単位	0 単位

学生総定員	学生実員(A)	留学生数(学生実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率
60 人	33 人	0 人	0 %	14 %

就職等の状況

■卒業者数（C）	5	人
■就職希望者数（D）	3	人
■就職者数（E）	3	人
■地元就職者数（F）	1	人
■就職率（E/D）	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合（F/E）	33	%
■卒業者に占める就職者の割合（E/C）	60	%
■進学者数	0	人

■その他

実習から就職につながるケースが多いため、実習指導等でも就職を意識した指導を行っている

（令和　　7 年度卒業者に関する令和8年5月1日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

社会医療法人水光会　宗像水光会病院　　山口医科大学病院　大分中村病院

当該学科又は専攻科のホームページURL：https://asojuku.ac.jp/amfc/clinic/

企業等と連携した実習等の実施状況

総単位数		93 単位
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	7 単位
	うち企業等と連携した演習の単位数	0 単位
	うち必修単位数	6 単位
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	6 単位
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	0 単位
	（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	0 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	2 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	0 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		2 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	2 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

〇教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携

（1）教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針及び教育課程編成委員会等の位置付け

a.教育課程編成委員会を年2回以上開催しているか。	している
開催日時実績	第1回 令和7年6月7日（土）14:30～16:00 / 第2回 令和8年2月20日（土）15:00～16:30
b.教育課程編成委員会に、以下①～③の類型に該当する企業等委員が参加しているか。 ※①から③において、①又は②から1人、③から1人が委員として参画している場合、「している」を選択。 ※①又は②から1人、③から1人が委員として参画していない場合、「していない」を選択。	している
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）	
②学会や学術機関等の有識者	
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員	
c.学校の教育課程編成の責任者が委員参加しているか。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.教育課程編成委員会の議事を記録し、学内回覧等しているか。	している
f.企業等委員の意見を教育課程編成見直しに反映しているか。	している
g.次の教育課程編成委員会に、教育課程編成の見直し結果等を報告しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
西山　謙	（公社）福岡県病院協会　診療情報管理研究研修会　委員長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
楳木　陽子	医療法人あさかぜ薬院内科循環器クリニック	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	②
中嶋　翔平	麻生医療福祉＆保育専門学校　リーダー		ー
和田　直也	麻生医療福祉＆保育専門学校　専任教員		ー

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「ー」を記載してください。）

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針及び実習・演習等における企業等との連携内容

a.実習等又は演習の形態の授業で企業等連携を行っているか。	している
b.企業等と連携を行う際は、企業等との組織的な協定や契約を締結しているか。	している
c.企業等との連携内容を、連携先企業等との文書等で明示的に合意しているか（連携のマニュアル、手引き等定めているか）。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.企業等の講師に対して事前打ち合わせや研修を行っているか。	している
f.企業等連携の実習・演習等の内容を学校側は適切に確認しているか（教員の見回り実施、実習日誌の作成等）。	している
g.企業等連携の実習・演習等における成績評価について、企業等と協議を行っているか。	している
h.適切な企業等連携の実習・演習となるよう、必要に応じて連携先企業等を見直しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科目概要	連　携　企　業　等
病院実習Ⅰ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	実習では、診療録の管理・点検、ICDコーディング、DPCデータの取り扱い、診療情報の統計作成など、診療情報管理士の主要業務を体験しながら、その役割を学ぶ。また、医療事務・医師事務作業補助者との業務の違いを理解し、診療情報管理士の専門性を明確にすることも重要なポイントとなる。 実習を通じて、医療現場における診療情報管理士の役割を実感し、実務を支える知識や技術がどのように活かされるかを学ぶ。	公立学校共済組合　九州中央病院 社会医療法人　聖マリア病院 医療法人輝栄会 福岡輝栄会病院 日本赤十字社　福岡赤十字病院　等
病院実習Ⅱ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	医療機関での実習を通じて、実務者とのコミュニケーションを図りながら必要な情報を収集し、業務フローを把握・可視化する力を養う。収集した情報をもとに業務フローを図示し、整理する過程でAIをソリューションとして活用する方法を学ぶ。さらに、業務フローを分析し、課題点を抽出するとともに、自ら改善策を考案する実践的思考力を培う。これらを通じて、医療現場に即した情報収集力・分析力・課題解決力を修得することを目的とする。	国家公務員共済組合連合会　新小倉病院 社会医療法人財団池友会　福岡新水巻病院 地方独立行政法人福岡市立病院機構　福岡市民病院　等
病院実習Ⅲ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	医療DXの現場を見学し、その特徴や課題を言語化することで理解を深める。医療機関における最新のAI活用の動向を把握し、自ら説明できる力を養う。さらに、医療DXに関連する業務を体験し、従来の業務フローと新しい業務フローを比較することで、変化の意義や改善点を理解する。これらの学びを通じて、医療分野におけるデジタル技術の実践的理解を深め、将来の現場対応力や課題解決力につなげることを目的とする。	国立健康危機管理研究機構　国立国際医療センター 医療法人徳洲会　湘南鎌倉総合病院 国立大学法人　九州大学病院　等

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）認定専門課程等の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る、職務の遂行に必要な知識・技能を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的として研修を受講させる。「教職員研修規程」に則り、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。年度の初めに研修計画を作成し、各教職員のスキルに適した研修が、計画的に受講できるようにする。また必要に応じ、年初の計画以外の研修受講も可能としている。

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	日本診療情報管理学会学術大会	連携企業等：	日本病院会
期間：	2025年8月28日	対象：	専任教員1名
内容	求められるプロフェッショナリズム ー診療情報管理士の業務とはー		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	教育とハラスメントの境界線～アカハラとカスハラを学ぶ～	連携企業等：	吉田総合法律事務所
期間：	2025年8月20日	対象：	専任教員1名
内容	アカデミックハラスメントの定義や具体的な事例を通して、指導時に注意すべきポイントを学ぶ。あわせて、カスタマーハラスメントの実態や対処法について理解を深め、ハラスメントを未然に防ぐための対策について考える。		

研修名：	高等教育機関における 合理的配慮	連携企業等：	有吉祐睡眠クリニック
期間：	2025年8月27日	対象：	専任教員1名
内容	教職員が知っておくべき合理的配慮の基本的な内容を学ぶ。 誤解されやすいポイントや要点として知っておくべき点を知り、発達障害をベースに、様々な状態像の学生のケースを通じて理解を深める。		

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	日本診療情報管理学会学術大会	連携企業等：	日本病院会
期間：	2026年9月17日	対象：	専任教員1名
内容	診療情報管理が支える未来の医療　―データ活用と倫理の調和―		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	「人権にかかわる『差別用語』・『不快に感じさせる表現』の理解」	連携企業等：	福岡県教育庁 教育振興部
期間：	2026年8月25日	対象：	専任教員1名
内容	近年、社会における人権意識や多様性への理解が高まる中、これまで日常的に使用されてきた言葉や表現の中にも、相手に不快感を与えたり、差別的な意味合いとして受け取られたりするものがある。本研修では、教育現場における適切な言葉遣いや配慮について理解を深めるとともに、高校で行われている人権教育や進路指導の現状についても学ぶ。		

4.「当該専門課程等を置く専修学校において、学校教育法第百三十二条の二第二項の規定により評価を受け、その結果を公表していること。」関係

〇学校関係者評価

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	
(1)教育理念・目的・目標	
1　教育理念、目的及び目標の設定等	
①教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	同内容評価項目を設けている
(2)学校運営	
1　教育課程の編成と授業科目	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成したうえで、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	同内容評価項目を設けている
2　教育の実施	
①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位数の総授業単位数に占める割合を具体的に設定していること。	同内容評価項目を設けている
3　単位・卒業認定	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針(資格・免許等を含む習得させる職業能力を含む)を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	同内容評価項目を設けている
4　学修成果目標の達成状況	
①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得(資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得を含む。)についての目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
(3)学生の受入れ、学生支援	
1　学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	
①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	同内容評価項目を設けている
2　自主的な学習の促進に対する支援	
①学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けていない
3　多様な学生に対する支援	
①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
4　学生生活に関する支援	
①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	同内容評価項目を設けている
②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	同内容評価項目を設けている
③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。　※簡易評価項目	同内容評価項目を設けている
④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	同内容評価項目を設けている

(4)教育実施組織・教員	
1　教員の配置、募集、採用	
①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等(教員の採用基準等)を整備し、適正に運用していること。	同内容評価項目を設けている
②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けていない
2　教員の組織編制等	
①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	同内容評価項目を設けている
②教員間で連携、協力体制を構築していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　教員の資質の向上	
①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
③教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
(5)教育環境	
1　教育環境の整備	
①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	同内容評価項目を設けている
②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けていない
③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2　安全対策、防災組織	
①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	同内容評価項目を設けている
②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　施設・設備等の点検、改善等	
①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
(6)教育活動の基盤と改善・向上の取組	
1　中期事業計画と財務基盤	
①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けていない
②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	同内容評価項目を設けている
2　学校運営	
①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること(職業教育に関するマネジメント(教育の企画・設計・運営等)における責任体制を含む。)。	同内容評価項目を設けている
3　学校評価の実施と改善活動	
①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。	同内容評価項目を設けている
③学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	同内容評価項目を設けている
④学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
4　社会からの理解と情報の公表	
①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	同内容評価項目を設けている
②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けていない

(3)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
占部　尊士	西九州大学　准教授	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	有識者
井浦　賢治	福岡市東住吉公民館　主事	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	地域住民
田中　隼平	心理カウンセラー科	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	卒業生
宮井　浩志	社会福祉科	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	卒業生
永渕　加代	こども未来学科	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	保護者等
大洲　隆一郎	福岡女子高等学校　校長	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	高等学校関係者
天野　恵	あゆみらい保育園　園長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
大庭　欣二	福岡福祉向上委員会　代表	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
潮田　大介	有限会社 ケンルック　事務長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
副島　和代	そえじま内科クリニック　事務長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
西山　謙	診療情報管理研究研修会　委員長	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	
公表URL	https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/amfc/2026/hyoka.pdf		
公表時期	令和8年10月1日		

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)情報提供

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	
公表URL	https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/amfc/		
公表時期	令和8年7月31日		

授業科目等の概要

	（職業実務専門課程　AI＆診療情報管理士科）令和8年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			医療概論	この授業では、医療の基礎知識を学ぶ。医療の歴史、倫理、社会保障制度、地域保健など、医療に関わる様々なテーマを幅広く扱う。現代医療の現状と課題を理解し、医療従事者として必要な倫理観を養うとともに、医療情報の適切な管理と活用についても学ぶ。これらの知識は、今後の専門科目学習の基盤となるだけでなく、医療現場での実践にも役立つものとなる。	1前	1	○			○			○	
2	○			病院概論	この授業では、診療情報管理士としての祝無理解を深めるために、病院見学前の準備および見学後の振り返りを行う。病院見学を通じて、現場の雰囲気や業務の実際を学び、今後の学習に活かす	1前	1	○			○		○		
3	○			人体構造・機能論	この授業では、人体の構造と機能の基礎を学ぶ。細胞、組織、器官といったレベルで人体の構成要素を理解し、各器官の役割と機能、そしてそれらがどのように連携して生命活動を維持しているかを学ぶ。神経系、循環器系、消化器系など、主要な器官系を網羅的に学習することで、人体を統合的に理解する能力を養う。この知識は、将来、医療現場で働く上で必須となる。	1前	1	○			○			○	
4	○			臨床医学ＩA	この授業では、臨床医学の基礎知識と主要疾患について学ぶ。各疾患の病態、症状、検査、診断、治療、予後、合併症、発生メカニズムなどを体系的に理解し、診療情報管理士として必要な臨床医学の知識を習得する。感染症、腫瘍、循環器疾患、呼吸器疾患など、様々な疾患を幅広く扱い、医療現場で必要となる実践的な知識を身につけることを目指す。	1前	3	○			○			○	
5	○			臨床医学ＩB	この授業では、臨床医学の基礎知識と主要疾患について学ぶ。各疾患の病態、症状、検査、診断、治療、予後、合併症、発生メカニズムなどを体系的に理解し、診療情報管理士として必要な臨床医学の知識を習得する。感染症、腫瘍、循環器疾患、呼吸器疾患など、様々な疾患を幅広く扱い、医療現場で必要となる実践的な知識を身につけることを目指す。	1後	3	○			○			○	

	（職業実務専門課程　AI＆診療情報管理士科）令和8年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
6	○			臨床医学ⅡA	本授業では、疾患の原因やリスクファクター、発生メカニズムを理解し、症状や病態生理、診断方法を体系的に学ぶ。さらに、主要な治療法とその選択基準、予後や回復の見通しを把握することを目的とする。また、各疾患に伴う合併症やその予防方法を理解し、疾患管理や予防の重要性について学ぶことで、臨床に必要な基礎的知識と応用力を養う。	2前	3	○			○			○	
7	○			医学・医療用語	この授業では、医療現場で使用される専門用語を学ぶ。医療に関連する接頭語・接尾語、各臓器の部位、症状、検査、治療に関する用語など、診療情報管理士として必要な医学用語を理解し、正しく使用できることを目指す。日本語と英語の対応、略語についても学び、医療現場での円滑なコミュニケーションや診療情報の正確な理解に役立てる。	1前	1	○			○			○	
8	○			医療管理Ⅰ	この授業では、医療機関の運営・管理に必要な基礎知識を学ぶ。医療提供に関わる資源や日本の医療制度、病院の組織構造と各部門の役割、診療報酬請求の仕組みなどについて理解を深める。特に、DPC制度の仕組みや診療報酬請求の方法に焦点を当て、診療情報管理士として必要な医療管理の基本的な知識を習得する。これらの知識は、医療現場での実務やチーム医療への参加に役立つ。	1前	3	○			○		○		
9	○			医療管理Ⅱ	本授業では、医療現場における安全管理と質管理を理解し、PDCAサイクルを活用した改善の仕組みを学ぶ。さらに、医療事故や医療過誤の事例を通してリスク管理の重要性を把握する。診療情報や医事会計データの活用方法を理解し、医療の質を評価・分析する能力を養うとともに、その評価結果の公表や社会的意義について考察する。これらを通じて、医療の安全と質向上に必要な基礎知識と実践力を修得する。	2前	1	○			○		○		
10	○			保険医療情報学	本授業では、保健医療分野における情報の種類と特性を理解し、診療情報や医療情報の活用基盤を学ぶ。情報化政策や関連法規を整理し、医療情報システムの特徴と法的規制について理解を深める。さらに、診療情報の二次利用や情報セキュリティの基本的考え方を学習し、個人情報保護の重要性を確認する。加えて、医療情報の標準化の意義や情報セキュリティに関する説明を実践的に行える力を養い、安全で信頼性の高い医療情報の管理と運用に必要な知識を修得する。	2前	1	○			○			○	

	（職業実務専門課程　AI＆診療情報管理士科）令和8年度															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
11	○			医療統計	本授業では、統計に関する基本用語や計算方法を理解し、グラフの種類とその使用用途を学ぶ。統計データをグラフ化して傾向を読み取る力を養い、診療記録をもとに情報の選定・収集を行い、テーマに沿った統計を作成する実践力を培う。さらに、Excelなどのツールを活用してデータを可視化し、グラフから得られる結果を分析する。そこから課題解決につながる提案を行うことで、医療現場で活かせる統計的思考力と実務応用力を修得することを目的とする。	2前	2	○			○				
12	○			診療情報管理Ⅰ	この授業では、診療情報管理士の業務内容と必要な資質、所属する組織について学ぶ。診療情報管理に関する法規、紙カルテ・電子カルテ運用の管理方法、診療情報提供の重要性とその運用方法を理解し、医療改善における診療情報管理士の役割を理解する。これらの知識は、診療情報管理の実務を行う上で基礎となるものであり、医療の質の向上に貢献する診療情報管理士を目指す上で重要な知識となる。	1後	1	○			○		○		
13	○			診療情報管理Ⅱ	本授業では、診療情報管理の意義と役割を理解し、関連する専門用語や法規制を体系的に学ぶ。さらに、診療記録の記載方式と多様な書類の特徴を整理し、適切に説明できる力を養う。加えて、DPC制度に基づく診断群分類の計算やレセプト点検の方法を理解し、診療報酬制度への応用力を培う。さらに、医師事務作業補助者の役割やがん登録の実務を学ぶことで、診療情報管理の実践的知識を習得することを目的とする。	2前	2	○			○		○		
14	○			国際統計分類	本授業では、ICDの概要と構造を理解し、ファミリー分類の種類や特性を体系的に学ぶ。原死因の概念と選択ルールを習得し、実際に適用できる力を養う。さらに、ICD各章のコーディング体系と方法・ルールを理解し、疾病コーディングを実践できるようにする。加えて、退院時要約を読み取り、主傷病・副傷病・外因・医療行為を適切に選択・当てはめる能力を培い、診療情報管理に必要な実務的知識と技能を修得することを目的とする。	2前	2	○			○		○		
15	○			がん登録	本授業では、がん登録の歴史や制度的背景を学び、がんの病態生理を理解して説明できる力を養う。さらに、院内がん登録の仕組みとICD-Oを用いたコーディング方法を習得する。主要ながんである胃・大腸・肝臓・肺・乳房の病期分類を正確に行えるよう実践的に学習し、標準登録様式の定義や内容、登録手順を理解する。あわせて、全国および院内がん登録の方法と役割を説明できる知識を修得し、がん診療の質向上に貢献できる基礎力を培う。	2前	2	○			○			○	

	（職業実務専門課程　AI＆診療情報管理士科）令和8年度															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
16	○			分類基礎	本授業では、ICD-10第1巻・第3巻を用いて各章の傷病名を正確にコーディングする技能を養う。ICD-10のページ構成や符号・記号・用語の使い方を理解し、実務に即した活用力を培う。さらに、退院時サマリーから主傷病名、副傷病名、外因、医療行為を適切に抽出し、ICDコードへ正しく変換・表記する能力を修得する。これらを通じて、診療情報管理に必要な正確性と実践的コーディング能力を身につけることを目的とする。	2前	1	○			○		○		
17	○			診療情報管理士認定試験対策Ⅰ	この授業では、診療情報管理士認定試験に対応する範囲を学習します。人体の構造と機能、主要な疾患、医療制度、医療関連法規、医学用語など、幅広い分野の基礎知識を習得し、過去問演習や模擬試験を通して、試験問題の傾向と対策を理解します。授業を通じて、教科書の内容理解、試験対策能力を向上させ、認定試験での得点力を高め、合格を目指します。	2後	1		○		○		○		
18		○		診療情報管理士認定試験対策Ⅱ	本授業では、診療情報管理士認定試験の合格を目指し、医学・医療分野の基礎知識を整理するとともに、過去問題の演習を通じて出題傾向と対策を理解する。基礎科目および専門科目の模擬試験を実施し、各科目で50%以上の得点率を目標に解答力を強化する。さらに、自己の弱点を分析し、苦手分野を克服するための学習計画を立案する力を養うことで、効果的な学習習慣と試験対応力を身につけることを目的とする。	2後	1		○		○		○		
19	○			診療情報管理士認定試験対策ⅢA	本授業では、診療情報管理士認定試験直前の総仕上げとして、医学・医療分野の基礎知識を徹底的に整理し、過去問題演習で出題傾向と対策を強化する。基礎科目・専門科目の模試を繰り返し実施し、各科目で確実に50%以上の得点を狙う。さらに、苦手分野を徹底的に洗い出して克服計画を立て、弱点をつぶす学習を行う。選択科目としては、自主的かつ発展的に挑戦し、応用力と主体性を高めることで、本試験に自信を持って臨める実力を仕上げる。	3前	2		○		○		○		
20	○			診療情報管理士認定試験対策ⅢB	本授業では、診療情報管理士認定試験直前の総仕上げとして、医学・医療分野の基礎知識を徹底的に整理し、過去問題演習で出題傾向と対策を強化する。基礎科目・専門科目の模試を繰り返し実施し、各科目で確実に50%以上の得点を狙う。さらに、苦手分野を徹底的に洗い出して克服計画を立て、弱点をつぶす学習を行う。選択科目としては、自主的かつ発展的に挑戦し、応用力と主体性を高めることで、本試験に自信を持って臨める実力を仕上げる。	3後	3		○		○		○		

	（職業実務専門課程　AI＆診療情報管理士科）令和8年度															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
21		○		診療情報管理士認定試験対策Ⅳ	本授業では、診療情報管理士認定試験に向けて医学・医療分野の基礎知識を整理し、過去問題演習を通じて出題傾向と対策を理解する。基礎科目・専門科目の模試を実施し、各科目で50%以上の得点率を目指して解答力を強化する。さらに、苦手分野を分析して克服に向けた学習計画を立てる力を養うとともに、選択科目として自主的・発展的な学習に取り組み、応用力や主体性を高めることを目的とする。	3前	1		○		○		○		
22	○			情報処理技術Ⅰ	この授業では、情報処理技術の基礎を学ぶ。情報・データの種類や単位、コンピュータの構造、ソフトウェアの種類と役割、プログラミング言語とアルゴリズムの基本的な考え方などを理解し、医療情報システムの開発や運用に必要な知識を習得する。演習を通して、データベースモデル、関係データベースの構築・操作・運用についても学び、医療情報システムの役割や利活用、データベースモデル、関係データベースの概念・特徴・操作に関する知識を深める。これらの知識は、医療情報技師として必要な情報処理能力の基盤となる。	1前	2	○			○		○		
23	○			情報処理技術Ⅱ	この授業では、ネットワーク技術、情報セキュリティ、システム運用管理について学ぶ。通信プロトコルの階層モデルやネットワーク機器・サービスの役割と特徴を理解し、情報セキュリティの対象や対策、セキュリティ技術、リスクマネジメントを理解する。医療情報システム開発の各工程におけるセキュリティ対策、医療情報システム運用時のセキュリティ管理を理解し、医療情報システムの運用管理やユーザ教育の方法、最新のICT技術・サービスを理解する。これらの知識・技術は、医療情報システムの構築・運用・管理に必要不可欠である。	1後	2	○			○		○		
24	○			医療情報システムⅠ	この授業では、医療情報システムの基礎知識とシステム導入プロセスについて学ぶ。診療分野における情報化と医療情報の特性を理解し、EHR・EMR・PHR、医療情報取得の倫理を学ぶ。病院情報システムの必要性と診療録等の電子化に関する機能、各診療・各部門に関するシステムの導入プロセスを理解する。さらに、情報化戦略に基づいた病院情報システムの導入プロセスを理解し、病院情報システムの運用管理・評価・改善の手法を理解する。これらの知識は、医療情報システムの導入・運用に必要不可欠である。	1後	2	○			○		○		

	（職業実務専門課程　AI＆診療情報管理士科）令和8年度															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
25	○			医療情報システムⅡ	本授業では、保健・医療・介護の各専門分野における情報システムの特性と機能を理解する。さらに、医療情報分野で用いられる標準規格や標準マスターの現状、代表的な規格について学ぶ。加えて、個人情報保護法をはじめとする関連法規や医療情報基盤、各種ガイドラインを理解し、安全で適正な情報管理の基礎を身につける。あわせて、医療情報のデータ分析の概要を習得し、医療経営、質の評価、臨床研究に必要なデータ特性と解析手法の理解を深める。	2前	2	○			○		○		
26	○			医療情報技師試験対策ＩA	この授業では、主に医療情報技師能力検定試験の医学・医療系および情報処理技術系の分野の基礎知識を固める。問題演習を通して医学・医療系、情報処理技術系分野の知識を深める。授業を通して、出題範囲の内容理解、論理的思考力、多角的な視点からの考察力を高め、医療情報技師能力検定試験での高得点を目指す。	1前	1		○		○		○		
27	○			医療情報技師試験対策ＩB	この授業では、主に医療情報技師能力検定試験の医学・医療系および情報処理技術系の分野の基礎知識を固める。問題演習を通して医学・医療系、情報処理技術系分野の知識を深める。授業を通して、出題範囲の内容理解、論理的思考力、多角的な視点からの考察力を高め、医療情報技師能力検定試験での高得点を目指す。	1後	1		○		○		○		
28	○			医療情報技師試験対策Ⅱ	本授業では、医療情報技師能力検定試験の出題範囲である医学・医療系および情報処理技術系の基礎知識を固めるとともに、問題演習を通じて理解を深める。さらに2年次では、これまでに学んだ医療情報システムに関する知識を加えて活用し、より実践的かつ応用的な演習を行う。授業を通じて、出題範囲の内容理解を広げ、論理的思考力や多角的な考察力を高めることで、医療情報技師能力検定試験において科目合格を目指す。	2前	1		○		○		○		
29		○		医療情報技師試験対策Ⅲ	本授業では、医療情報技師能力検定試験における科目合格を基盤として、最終的な検定合格を目指す。問題演習を通じて知識を定着させるとともに、試験傾向を踏まえた対策を実施し、計画的な学習を支援する。さらに、これまでに学んだ医学・医療系、情報処理技術系、医療情報システムに関する知識を統合し、実践的に活用する力を養う。体系的な学習を通じて、論理的思考力と応用力を高め、検定合格に必要な実力を身につけることを目的とする。	2後	1		○		○		○		

	（職業実務専門課程　AI＆診療情報管理士科）令和8年度															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
30		○		医療情報技師試験対策Ⅳ	本授業では、医療情報技師能力検定試験における科目合格を基盤として、最終的な検定合格を目指す。問題演習を通じて知識を定着させるとともに、試験傾向を踏まえた対策を実施し、計画的な学習を支援する。さらに、これまでに学んだ医学・医療系、情報処理技術系、医療情報システムに関する知識を統合し、応用力を培う。受験直前には模擬問題や総合演習を行い、弱点克服や解答力強化による最終調整を図り、検定合格に必要な実力を仕上げる。	3前	1		○		○		○		
31	○			病院実習Ⅰ	診療情報管理士としての業務を実際の医療機関で経験し、机上学習との違いを理解するとともに、現場で求められる実践的なスキルを体験することを目的する。 実習では、診療録の管理・点検、ICDコーディング、DPCデータの取り扱い、診療情報の統計作成など、診療情報管理士の主要業務を体験しながら、その役割を学ぶ。また、医療事務・医師事務作業補助者との業務の違いを理解し、診療情報管理士の専門性を明確にすることも重要なポイントとなる。 実習を通じて、医療現場における診療情報管理士の役割を実感し、実務を支える知識や技術がどのように活かされるかを学ぶ。	1後	2			○		○		○	○
32	○			病院実習Ⅱ	医療機関での実習を通じて、実務者とのコミュニケーションを図りながら必要な情報を収集し、業務フローを把握・可視化する力を養う。収集した情報をもとに業務フローを図示し、整理する過程でAIをソリューションとして活用する方法を学ぶ。さらに、業務フローを分析し、課題点を抽出するとともに、自ら改善策を考案する実践的思考力を培う。これらを通じて、医療現場に即した情報収集力・分析力・課題解決力を修得することを目的とする。	2後	4			○		○		○	○
33		○		病院実習Ⅲ	本授業では、医療DXの現場を見学し、その特徴や課題を言語化することで理解を深める。医療機関における最新のAI活用の動向を把握し、自ら説明できる力を養う。さらに、医療DXに関連する業務を体験し、従来の業務フローと新しい業務フローを比較することで、変化の意義や改善点を理解する。これらの学びを通じて、医療分野におけるデジタル技術の実践的理解を深め、将来の現場対応力や課題解決力につなげることを目的とする。	3前	1			○		○		○	○

	（職業実務専門課程　AI＆診療情報管理士科）令和8年度															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
34	○			実習前後指導Ⅰ	前期では、診療情報管理士としての職務理解を深めるために、病院見学前の準備および見学後の振り返りを行う。病院見学を通じて、現場の雰囲気や業務の実際を学び、今後の学習に活かすことを目的とする。 後期では、病院実習Ⅰに際しての事前準備・事前審査・実習後の振り返り・実習報告会を行う。病院実習に臨むにあたり必要な準備期間、振り返り学習を目的する。	1後	2		○		○		○		
35	○			実習前後指導Ⅱ	本授業では、病院実習Ⅱに向けた準備と実習後の振り返りを通じて、学びを効果的に定着させることを目的とする。実習前には、医療機関で必要となるコミュニケーション力や情報収集の方法、業務フロー把握の手順を確認し、実習に臨む姿勢を整える。実習後には、業務フローの図示やAIを活用した整理・分析を振り返り、課題点や改善策を共有する。これにより、実習経験を体系的にまとめ、医療現場で活かせる実践力へと発展させる。	2後	2	○			○		○		
36		○		実習前後指導Ⅲ	本授業では、病院実習Ⅲに備えて医療DXやAI活用に関する基礎知識を整理し、現場見学や体験に向けた準備を行う。実習前には、医療DXの概要や業務フロー変革の視点を理解し、学びを深めるための観察・記録方法を確認する。実習後には、体験内容を振り返り、従来と新しい業務フローの比較を通じて得られた気づきを言語化し、改善点や課題を共有する。これにより、実習での学びを体系化し、デジタル技術を活かした医療理解と実践力を強化する。	3前	2	○			○		○		
37	○			GCBⅠ／コミュニケーション実践ⅠA	この授業では、医療現場で求められるコミュニケーション能力を養います。会話を通じて、クラスメイトや他学年学生と積極的に交流することができ、先輩や目上の人との適切な関係性を学び、尊重したコミュニケーションを理解します。チーム活動を通して協同の重要性を理解し、自己開示と他者理解を深め、人間関係の構築を理解します。グループワークを通して、医療現場で円滑な人間関係を築き、患者さんとの良好なコミュニケーションを図るための実践的なスキルを習得します。	1前	1		○		○		○		
38	○			GCBⅠ／コミュニケーション実践ⅠB	この授業では、医療現場で求められるコミュニケーション能力を養います。会話を通じて、クラスメイトや他学年学生と積極的に交流することができ、先輩や目上の人との適切な関係性を学び、尊重したコミュニケーションを理解します。チーム活動を通して協同の重要性を理解し、自己開示と他者理解を深め、人間関係の構築を理解します。グループワークを通して、医療現場で円滑な人間関係を築き、患者さんとの良好なコミュニケーションを図るための実践的なスキルを習得します。	1後	1		○		○		○		

	（職業実務専門課程　AI＆診療情報管理士科）令和8年度															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
39	○			GCBⅡ／コミュニケーション実践ⅡA	本授業では、職場や組織で不可欠な報連相を目的意識を持って実践し、状況に応じた適切な報告・連絡・相談ができる力を養う。さらに、アサーティブな姿勢で自己主張を行いながら、相手の意見を尊重し、建設的な議論を行うスキルを学ぶ。チームや組織の中で自らの役割を理解し、責任を果たす行動を実践するとともに、多様な関係者と信頼関係を築き、協働して業務を遂行できる力を培い、社会人としての基盤を形成することを目的とする。	2前	1		○		○		○		
40	○			GCBⅡ／コミュニケーション実践ⅡB	本授業では、職場や組織で不可欠な報連相を目的意識を持って実践し、状況に応じた適切な報告・連絡・相談ができる力を養う。さらに、アサーティブな姿勢で自己主張を行いながら、相手の意見を尊重し、建設的な議論を行うスキルを学ぶ。チームや組織の中で自らの役割を理解し、責任を果たす行動を実践するとともに、多様な関係者と信頼関係を築き、協働して業務を遂行できる力を培い、社会人としての基盤を形成することを目的とする。	2後	1		○		○		○		
41	○			コミュニケーション実践ⅢA	本授業では、社会課題や医療・福祉分野をテーマに自らの考えを整理し、分かりやすく発信する力を養う。協働作業を通じてチーム内で役割を果たし、他者と協力して課題解決に取り組む実践力を培う。さらに、プレゼンテーションや発表を行う中で、論理性と共感性を兼ね備えた表現力を身につける。活動の振り返りを通じて自己の成長や課題を言語化し、次の行動に結びつけることで主体的な学びの姿勢を確立することを目的とする。	3前	1		○		○		○		
42	○			コミュニケーション実践ⅢB	本授業では、社会課題や医療・福祉分野をテーマに自らの考えを整理し、分かりやすく発信する力を養う。協働作業を通じてチーム内で役割を果たし、他者と協力して課題解決に取り組む実践力を培う。さらに、プレゼンテーションや発表を行う中で、論理性と共感性を兼ね備えた表現力を身につける。活動の振り返りを通じて自己の成長や課題を言語化し、次の行動に結びつけることで主体的な学びの姿勢を確立することを目的とする。	3後	1		○		○		○		
43	○			マナーＩA	この授業では、社会人・医療従事者として必要な基本的なマナーを習得する。医療ホスピタリティ接遇検定で90%以上の正答率を達成し、基本的なビジネスマナー（敬語の使い方、電話対応、メール作成、挨拶など）を習得し、一般社会における常識や患者やその家族に対する言葉遣い・態度を理解する。医療従事者としての接遇スキルを自ら考え、ロールプレイにて実践し、クレーム対応や患者対応など応用的な接遇シーンにおいて適切な対応方法を理解する。これらの知識・技能は、円滑な人間関係を築き、患者さんとの良好なコミュニケーションを図る上で重要である。	1前	1	○			○			○	

	（職業実務専門課程　AI＆診療情報管理士科）令和8年度															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
44	○			マナーⅠB	この授業では、社会人・医療従事者として必要な基本的なマナーを習得する。医療ホスピタリティ接遇検定で90%以上の正答率を達成し、基本的なビジネスマナー（敬語の使い方、電話対応、メール作成、挨拶など）を習得し、一般社会における常識や患者やその家族に対する言葉遣い・態度を理解する。医療従事者としての接遇スキルを自ら考え、ロールプレイにて実践し、クレーム対応や患者対応など応用的な接遇シーンにおいて適切な対応方法を理解する。これらの知識・技能は、円滑な人間関係を築き、患者さんとの良好なコミュニケーションを図る上で重要である。	1後	1	○			○			○	
45	○			マナーⅡA	本授業では、医療現場に求められる実践的なコミュニケーション力とビジネスマナーを修得する。医療チーム内で信頼される報連相の方法を理解し、場面に応じた適切な電話応対を演習する。さらに、患者や家族へのクレーム対応を事例に基づき学び、的確な対応力を養う。また、医療現場にふさわしいビジネス文書作成の基礎を習得し、実務で活かせる文章力を培う。社会人基礎力と医療人としてのマナーを強化することを目的とする。	2前	1	○			○			○	
46	○			マナーⅡB	本授業では、医療現場に求められる実践的なコミュニケーション力とビジネスマナーを修得する。医療チーム内で信頼される報連相の方法を理解し、場面に応じた適切な電話応対を演習する。さらに、患者や家族へのクレーム対応を事例に基づき学び、的確な対応力を養う。また、医療現場にふさわしいビジネス文書作成の基礎を習得し、実務で活かせる文章力を培う。社会人基礎力と医療人としてのマナーを強化することを目的とする。	2後	1	○			○			○	
47		○		マナーⅢ	本授業では、院内実習で想定される多様なケースを題材に、医療現場における状況判断力と接遇力を養う。具体的には、3～5種類のケースを取り上げ、フレームワークなどの手法を用いて原因を整理し、問題の背景を多角的に分析する。さらに、院内接遇の基本に基づいて適切な対応策を考察し、シートにまとめる実践を行う。これらを通じて、実習や将来の現場で必要となる課題解決力と振る舞いの基盤を形成することを目的とする。	3前	2	○			○			○	

	（職業実務専門課程　AI＆診療情報管理士科）令和8年度															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
48	○			就職実務ＩA	医療業界の理解を深め、働く上での心構えを学ぶ。業界理解や、卒業生や企業の方の講演、ボランティア体験などを通して、自分に合った就職先を選ぶ軸を考える。また、小論文対策に取り組み、自分の考えを明確に言語化する力を養う。	1前	1	○			○		○		
49	○			就職実務ＩB	医療業界の理解を深め、働く上での心構えを学ぶ。業界理解や、卒業生や企業の方の講演、ボランティア体験などを通して、自分に合った就職先を選ぶ軸を考える。また、小論文対策に取り組み、自分の考えを明確に言語化する力を養う。	1後	1	○			○		○		
50	○			就職実務ⅡA	本授業では、就職活動に必要な自己理解と表現力を養い、社会人への第一歩を踏み出す準備を行う。自己分析を通じて志望動機や自己PRを的確に言語化し、応募書類（履歴書・エントリーシート）を実践的に作成できる力を培う。さらに、模擬面接を通して面接態度や応答内容を改善し、即戦力となる面接力を修得する。就職活動全体のスケジュール管理を行い、計画的に行動できる実践力を身につけることで、希望進路実現に向けた準備を整える。	2前	1	○			○		○		
51	○			就職実務ⅡB	本授業では、就職活動に必要な自己理解と表現力を養い、社会人への第一歩を踏み出す準備を行う。自己分析を通じて志望動機や自己PRを的確に言語化し、応募書類（履歴書・エントリーシート）を実践的に作成できる力を培う。さらに、模擬面接を通して面接態度や応答内容を改善し、即戦力となる面接力を修得する。就職活動全体のスケジュール管理を行い、計画的に行動できる実践力を身につけることで、希望進路実現に向けた準備を整える。	2後	1	○			○		○		
52		○		就職実務Ⅲ	本授業では、自己の課題を客観的に分析し、試験対策・研究・ボランティアなど多様な活動に主体的に取り組む力を養う。自ら計画を立案し、実行に移すプロセスを学ぶとともに、逆算的に行動を組み立てる方法を実践する。さらに、計画が思い通りに進まない場合には定期的に振り返りを行い、改善点を見直す習慣を身につける。これらを通じて、自律的な学習態度と柔軟な行動調整力を培い、将来の専門活動や社会生活に活かせるセルフマネジメント能力を形成する。	3前	1	○			○		○		

	（職業実務専門課程　AI＆診療情報管理士科）令和8年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
53	○			課題解決思考ＩＡ	本授業は、グループワークやフィールドワークを主体とした実践的な学習を中心に進める。As - Is/To - beの思考過程やドラッカーの顧客思考（5つの問）を活用し、課題を分析・考察する。日常の事象に対して違和感を持ち、それを言語化するトレーニングを行うほか、フィールドワークを通じて身近な出来事をフロー図で可視化し、改善案を導き出す。また、授業冒頭ではドラッカーの書籍を用いた読書会を実施し、考えを深め、他者と共有する機会を設ける。これらを通じて、実践的な課題解決力の向上を図る。	1前	2	○			○		○		
54	○			課題解決思考ＩＢ	本授業は、グループワークやフィールドワークを主体とした実践的な学習を中心に進める。As - Is/To - beの思考過程やドラッカーの顧客思考（5つの問）を活用し、課題を分析・考察する。日常の事象に対して違和感を持ち、それを言語化するトレーニングを行うほか、フィールドワークを通じて身近な出来事をフロー図で可視化し、改善案を導き出す。また、授業冒頭ではドラッカーの書籍を用いた読書会を実施し、考えを深め、他者と共有する機会を設ける。これらを通じて、実践的な課題解決力の向上を図る。	1後	2	○			○		○		
55	○			課題解決思考ⅡＡ	本授業では、身近な出来事や経験を題材に課題を発見し、その違和感を言語化する力を養う。課題を構造化して論理的に分析することで、問題の本質を捉える思考力を培う。さらに、改善案を自ら創出し、根拠を明確に説明する実践的な表現力を学ぶ。活動の振り返りを通じて自己の思考の強みと課題を客観的に把握し、次の行動につなげることで、課題解決に向けた主体的かつ論理的な姿勢を身につけることを目的とする。	2前	2	○			○		○		
56	○			課題解決思考ⅡＢ	本授業では、身近な出来事や経験を題材に課題を発見し、その違和感を言語化する力を養う。課題を構造化して論理的に分析することで、問題の本質を捉える思考力を培う。さらに、改善案を自ら創出し、根拠を明確に説明する実践的な表現力を学ぶ。活動の振り返りを通じて自己の思考の強みと課題を客観的に把握し、次の行動につなげることで、課題解決に向けた主体的かつ論理的な姿勢を身につけることを目的とする。	2後	2	○			○		○		

	（職業実務専門課程　AI＆診療情報管理士科）令和8年度															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
57	○			医療事務ＩA	この授業では、医療事務の基本的な知識・技能を習得する。医療保険制度の 種類や仕組みを理解し、保険証を識別・種類と記載内容を説明できるようになり、自賠責保険・労災保険・生活保護の受付や公費負担医療証の概要を理解する。レセプトの目的や作成方法、提出の流れ、返戻や減点などの起きる事例・対応方法を説明する、診療報酬点数・薬価基準・算定ルールや施設基準に基づき、診療報酬点数表を用いて計算できる、という技術を習得することを目指す。	1前	2	○			○		○		
58	○			医療事務ＩB	この授業では、医療事務に必要な診療報酬請求に関する知識・技能を学ぶ。カルテの内容から診療報酬を算定し、医学用語や略語を見て診療報酬点数表から該当するものを探し出し、レセプトの作成および点検業務を理解する力を身につける。これらの知識と技能を身につけることで、医療事務として必要な能力を身につけることができる。	1後	2	○			○		○		
59		○		医療事務検定対策ゼミ	医療事務に必要な診療報酬請求に関する知識・技能を学ぶ。カルテの内容から診療報酬を算定し、医学用語や略語を見て診療報酬点数表から該当するものを探し出し、レセプトの作成および点検業務を理解する力を身につける。これらの知識と技能を身につけることで、医療事務として必要な能力を身につけ、検定合格に向けて取り組む	1後	2	○			○		○		
60	○			医療事務Ⅱ	本授業では、レセプト内容を正確に点検し、誤記入や誤算定をカルテと照合して訂正する力を養う。診療報酬点数表や関連資料を用いて、根拠に基づく訂正を行う実践力を培う。さらに、医療機関や条件に応じて相手に分かりやすく正しく返答する表現力を学ぶ。加えて、個人情報保護法や守秘義務を理解し、法令に則した受付・対応を考える力を身につけることで、医療事務職の実務にて求められる正確性と責任感を実践的に修得する。	2前	2	○			○		○		
61		○		医療事務Ⅲ	本授業では、診断書・紹介状・同意書・医証など多様な医療文書の種類と特徴を理解し、カルテを基に正確に作成・確認・訂正する力を養う。電子カルテを活用し、各医療文書の作成や訂正を実践的に学ぶとともに、自賠責保険・労災保険の点数計算やレセプト様式の違い、請求の流れを理解する。さらに、厚生労働省や保健所など関係機関との連携や届出書類・調査の概要を学び、医療事務職に求められる実務知識と対応力を修得することを目的とする。	3前	2	○			○		○		

	（職業実務専門課程　AI＆診療情報管理士科）令和8年度							授業方法			場所		教員		
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数								企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
62	○			電子カルテ・レセプト実践	本授業では、レセプトコンピュータの概要と各機能を理解し、医療現場で使用されているソフトの仕組みを具体的にイメージできる力を養う。カルテやコスト資料をもとに、DPC包括医療算定と出来高算定を行い、必要な病名や治療行為を確認する実践力を培う。さらに、電子カルテの構成や患者検索、オーダリング機能を学び、データを抽出するスキルを修得する。電子カルテとレセプトコンピュータのデータの違いを理解し、その活用方法を説明できる能力を身につける。	2前	2	○			○		○		
63	○			AI基礎ＩA	本科目では、AIの基礎知識から応用までを幅広く学習する。演習を通してデータサイエンスの基礎を学び、機械学習や深層学習といったAIの主要技術を理解する。Pythonの基礎を学び、統計処理を目的としたAIプログラミングに取り組む。生成AIツールを用いたプロンプトエンジニアリングの実践を通して、AI技術の活用スキルを高める。さらに、AI利用における倫理的な課題、個人情報保護、信頼性確保についても理解を深め、責任あるAI活用を実践する知識と判断力を養う。	1前	1		○		○		○		
64	○			AI基礎ＩB	本科目では、AIの基礎知識から応用までを幅広く学習する。演習を通してデータサイエンスの基礎を学び、機械学習や深層学習といったAIの主要技術を理解する。Pythonの基礎を学び、統計処理を目的としたAIプログラミングに取り組む。生成AIツールを用いたプロンプトエンジニアリングの実践を通して、AI技術の活用スキルを高める。さらに、AI利用における倫理的な課題、個人情報保護、信頼性確保についても理解を深め、責任あるAI活用を実践する知識と判断力を養う。	1後	1		○		○		○		
65	○			AI基礎Ⅱ	本授業では、1年次に習得したAIの基礎知識やプログラミングスキルを発展させ、医療現場におけるAIの具体的な適用シーンを探究する。データサイエンスや機械学習・深層学習の応用演習を通じて、医療情報の解析や臨床支援への活用を実践的に学ぶ。さらに、生成AIの高度なプロンプトエンジニアリングを実施し、現場課題に対応できる活用力を養う。加えて、AI利用に伴う倫理・法規制・セキュリティの課題を再確認し、責任あるAI導入を考察することで、医療DXを担う人材としての実践力を培う。	2前	1		○		○		○		
66	○			AI活用/ データサイエンスA	本授業では、2年次に発見した医療現場でのAI適用シーンを基に、妥当性のあるAI活用方法を自ら説明できる力を養う。具体的なデータを活用し、機械学習や深層学習モデルの特徴を踏まえて、最適な適用方法を検討・提示する演習を行う。さらに、最新の医療DX事例やAI導入の実務を参照し、導入時の効果と課題を整理する。加えて、法規制・倫理・セキュリティの観点を踏まえた活用方法を言語化し、医療現場における責任あるAI活用を提案できる実践力を身につける。	3前	4	○			○		○		

	（職業実務専門課程　AI＆診療情報管理士科）令和8年度															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
67		○		AI活用/ データサイエンスB	本授業では、2年次に発見した医療現場でのAI適用シーンを基に、妥当性のあるAI活用方法を自ら説明できる力を養う。具体的なデータを活用し、機械学習や深層学習モデルの特徴を踏まえて、最適な適用方法を検討・提示する演習を行う。さらに、最新の医療DX事例やAI導入の実務を参照し、導入時の効果と課題を整理する。加えて、法規制・倫理・セキュリティの観点を踏まえた活用方法を言語化し、医療現場における責任あるAI活用を提案できる実践力を身につける。	3後	3		○		○		○		
68		○		セルフマネジメントA	本授業では、自己の課題を客観的に分析し、試験対策・研究・ボランティアなど多様な活動に主体的に取り組む力を養う。自ら計画を立案し、実行に移すプロセスを学ぶとともに、逆算的に行動を組み立てる方法を実践する。さらに、計画が思い通りに進まない場合には定期的に振り返りを行い、改善点を見直す習慣を身につける。これらを通じて、自律的な学習態度と柔軟な行動調整力を培い、将来の専門活動や社会生活に活かせるセルフマネジメント能力を形成する。	3前	4		○		○		○		
69		○		セルフマネジメントB	本授業では、自己の課題を客観的に分析し、試験対策・研究・ボランティアなど多様な活動に主体的に取り組む力を養う。自ら計画を立案し、実行に移すプロセスを学ぶとともに、逆算的に行動を組み立てる方法を実践する。さらに、計画が思い通りに進まない場合には定期的に振り返りを行い、改善点を見直す習慣を身につける。これらを通じて、自律的な学習態度と柔軟な行動調整力を培い、将来の専門活動や社会生活に活かせるセルフマネジメント能力を形成する。	3後	4		○		○		○		
合計					68 科目		117 単位									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	・学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から93単位以上修得していること。 ・必修科目の単位を修得していること。	1学年の学期区分	2 期
履修方法：	・学則に定められた科目の中から、必要な科目を履修する。 ・必修科目の単位は必ず修得しなければならない。 ・指定された履修年次に単位を修得できなかった必修科目は、原則として、次の学期または学年に再履修しなければならない。 ・科目の履修および単位の認定は、科目試験の評価を持って行う。 ・それぞれの科目の履修方法は、当該シラバスに記載されている。	1学期の授業期間	15 週